



BLITZ
Touch-LASER
TL316RW

価格：オープン(実勢価格：4万1800円)

無線LAN搭載モデル増強で 第6世代のユーザービリティが さらにアップ!

今や速度取り締まり機の対策としてだけでなく、安全ドライブの情報ツールとしても注目されているレーダー探知機。格段の進化を果たしたブリッツ・タッチレーザシリーズの第6世代にも、このたび4台目のバリエーションとしてTL316Rが追加された。本機種はもちろん、第6世代全体の強みをここでチェック!

まとめ：渡辺大輔

スタンダードモデルが 待望のデビューとなる

ブリッツ・タッチレーザといえ、すでに多くのユーザーに親しまれているレーダー探知機の名品。レーザ式オービスが登場したタイミングに、いち早く対応機種をデビューさせたことで信頼を勝ち得たことは記憶にも新しいだろう。そんなタッチレーザはすでに第6世代へと突入し、より安心感を高めた機能強化が図られているのだ。

そのひとつがJMA系やMSSS系といった、現在主流になる取り締まり機への対応。国内で確認できている取り締まり機を全て網羅しているのだ。この対応力は現行モデルだ



TL406RW
価格：オープン
(実勢価格：4万6800円)



TL246R
価格：オープン
(実勢価格：2万4800円)



TL316R
価格：オープン
(実勢価格：3万7800円)



JMAスキャン機能を搭載することで、高感度設定でも誤警報を識別。レーダーの種類を特定することで、取り締まり機なら警報を継続、その他のレーダー波なら警報を終了してくれる。



MSSS受信設定機能は2つの感度設定から選択可能。より広い周波数を検知するHIGHだけでなく、街中などで誤警報の低減を優先するLOWなど使い分けも簡単に行なえる。

だけでなく、従来モデルからキャリアオーバーされているが、さらに第6世代になるとXバンド帯の誤警報を大幅に低減させるスキャン機能を搭載。従来機と比べると最大で87%も誤警報を抑えてくれるため、警報の精度が格段にアップしているのだ。また、車速や加減速Gを利用し、独自のアルゴリズムによって走行状態を分析。このデータを元に不要な警報を自動でカットするフルオート機能など、快適なドライブまでもサポートしてくれることも魅力と言える。

こうした警報機能の強化に加え、第6世代としての注目機能は無線LANを新たに搭載したことも注目ポ

イント。昨年発売されたTL406RW、そして1月に発売されたTL316RWの2モデルでは、WiFi機能を追加したことでスマホのテザリングや無線LANアクセスポイントと繋がれば、いつでも簡単に最新データへの更新が可能になったのだ。これまではPCからデータをダウンロードし、マイクロSDを介して行なっていたアップデートが素早く手軽に行なえるようになったのは、ユーザーの利便性を高めてくれるというわけだ。

4インチ画面を持つフラッグシップのTL406RW、そしてスタンダードモデルのTL316R&TL316RW、エントリーグレードのTL246R。全4機種が勢揃いしたタッチレーザシリーズは、安心ドライブのサポートツールとして注目度はさらにアップすること間違いなしだ。



従来からあるKバンドはもちろん、受信範囲を拡大しているため第6世代モデルでは最新の取り締まり機にも対応しているのは、安心ドライブの鍵となるはず。